令和　7年度　　園評価　　モコ掛川保育園・モコ宮脇保育園

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	改善策・来年度に向けて
向かうべき保育の方向	法人理念	『子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる』	子どものバックグランドや発達を知り、想いを受け止めながら一歩先の手立てを考える寄り添い方ができている		✓			今年度は新たな取り組みとして、園内での公開保育を実施した。昨年度外部向けの公開保育を実施し、他の園の職員に保育を見られる事には抵抗はなくなったが、同じ園の職員に保育を見てもらい、意見をもらうことに対しては緊張感もあったが、園内でたくさん意見が交わされ、アドバイスをしたり、もらったりできたことは大きな学びとなった。 昨年度 ドキュメンテーションをより良いものに！と研修の中で自身の書いたドキュメや、他者の書いた心に残ったドキュメを持ちより、紹介し合ったが、深堀はしてこなかったため、保育の視点が豊かになったり、深まったりはできなかった様に感じる。保育の視点が職員の中でずれがあるとは感じないが、子どもを観察する視点はもっと磨かれても良いと感じるので、ドキュメンテーションを軸に保育の視点を切磋琢磨して磨き合っていければ嬉しい。 小規模保育園のモコ宮脇保育園にモコ掛川保育園が併設され、大きくなり、数年が経過した今、「個」への寄り添いの丁寧さは改めて職員ひとりひとりが意識したり、どう保育していくべきなのかを考えて行く必要がある。組織として落ち着いてきた今、再度「理念」に目を向け考えていきたい。
	園の基本方針	子ども一人一人の発達や成長、その子を取り巻く環境をよく理解し、その子の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育をする』 『未来を生き抜くために、たくましい心と体を作り、想像力豊かに考える事ができるよう保育する』 『安心して子どもを預ける環境を作り、親が自ら自分の子育てを相談したくなるような信頼関係を目指す』	専門的な知識のもとで、子どもの成長を促すための環境を整え、ひとりひとりの育ちを的確に捉え、援助していくとと共に、保護者にも園での細かな子どもの姿を伝え、子どもの育ち共有し、前向きに子育てできよう、保護者支援を行っている		✓			
	園の目指す子ども像	『子どもらしい子』 『自分で考え決められる子』 『しなやかな心を持つ子』 『思いやりのある子』	ひとりひとりの子どもを理解し、その子の育ちを大切にする 遊びを中心にして、子ども同士が切磋琢磨しあいながら成長できることを願い、様々な配慮や環境設定を行う事ができている		✓			
	園の求める保育の視点	『何かに興味を持っている』 『夢中になっている』 『チャレンジしている』 『気持ちを表現している』 『役割を果たしている』	ひとりひとりの子どもを理解していくにあたり、「その子」の興味関心に保育士が気づき、観察し、成長を読み取る事ができる また、成長の記録として残すことができている		✓			
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	チェックリストを活用し、自身の振り返りを行っている。 園内研修の中で、振り返りについて話し合い、組織として不適切な対応をどう無くしていくべきかを考える時間を確保している		✓			在籍する子どもたちは毎年様々なカラーがあり、担任がカラーをしかっりと読むことで子どもたちの育ちが現れてくる。それは、「例年通り」でこなしていっては成されないことで、担任の細かな配慮が必要だと感じる。 本園は子どもたちが自分より大きな子たちに「憧れ」の気持ちを持って、それが原動力となり成長していく姿がたくさん見られる園。今年度もその育ちを大切にしてきたが、「クラスのカラー」のためか、火がなかなかつかない難しさを感じた年だった。目の前にいる子どもたちにとって、どんなハードルが「やる気」にさせるのか、自信を持てるようになるのか、主体的に子どもがチャレンジしてくために、子ども達の「やってみたい！」を掻き立てる玩具や、その年の子どものカラーを読み取って環境を設定していく大切さを改めて感じた。
	０歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切にした保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	大きくなる事への憧れや喜びを感じられるよう、クラスの枠にとらわれず、異年齢の関わりを意識しながら保育を行っている。		✓			
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている	子どもの発想や「やってみたい！」の気持ちを汲み取り、遊びが発展するように援助や環境構成がなされている	✓				
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 育ちや発達に考慮した関わりを行っている	子ども目身が見通しを持った生活が送れるよう、日々日課が変動することが無いよう計画を立てている。 生活に無理が無いよう、家庭でのリズムの安定も保護者と共に考えたり、連携を密にし対応をしている。		✓			
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	子どもの興味だけでなく、発達を意識し様々な経験が出来たり、季節を感じられる環境構成がなされている	✓				
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	指示系統が明確になっている上で、各クラスが主体的に子どもの命を守るための判断ができるよう、訓練の為でない話し合いを行う		✓			年度の初め、初めて園の前の貯水池が溢れてしまいそうなほどの大雨が降り、園の浸水の危機を強く感じた。今まで、浸水地域ではあるが、園舎が道路よりも少し高い位置に建てられていたので、余裕があるように感じてしまっていたが、水が増え始めたらあっという間に危険な水位に達するかもしれないため、すぐに垂直避難の訓練を行った。今まで危機意識の強かった地震に対しては、もちろん警戒が必要だが、ゲリラ豪雨など昨今増えてきた災害に対しても、意識をたかめていきたい。 園内の安全管理については、様々な意見を保護者アンケートでいただいた。改善が早急に必要な部分など、優先順位をつけながら、子どもたちが安全に過ごせる園となるようにしていきたい。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につなげない	日々の細かいヒヤリハットについて、全職員に周知しておきたい事項はコドモンで配信をする等、迅速に全体周知を行うよう意識をする		✓			
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	想定された避難訓練だけでなく、保育士も想定していない予告なしの訓練を何度か行い、いざという時にも対応できるようにする。 園長やリーダー不在時の対応方法を再度確認し、いつ非常事態になっても対応できるよう確認を行う		✓			
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている				✓		
保健	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	感染症への罹患が確認された場合の対応方法（保護者へ伝える事、提出書類、室内の消毒等）を周知する			✓		ることができなかった。 園での衛生管理は徹底していたつもりだが、医師の診断や、保護者の判断など食い止められない部分も多く、マニュアルだけではどうしようもない難しさを感じた。 新型コロナ終息後から、インフルエンザや嘔吐下痢などの流行時期も以
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身についている	園外へ積極的に出かけ、園内だけではできない様々な経験ができるようにする。異年齢で同じ空間で遊ぶ事を大切にし、年長児が挑戦している事		✓			

・食育	健康	自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている	に学ぶ。異年齢で同じ空間で遊ぶ事を大切にし、年長児が挑戦している事に興味を持ちやってみようとチャレンジする気持ちを育む。		✓			前と変わってきている。予防接種前の流行拡大などもありうることを予想して、感染症対策について検討していく必要があると思う。
	食育	食に興味が持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	収穫してすぐに食べてみる経験や、皮むきなど調理過程を経験するなど、実体験を通しての「食育」を大切にする		✓			食育活動は、外部講師の助けもあり、子ども達で話し合う経験も、食材を育て、調理し食べる経験も年間通して行うことができた。次年度も継続できると嬉しい。
		発達に応じた食事のマナーを伝えている	子どもの「食事」の発達を見直し、食具の移行等どの職員も同じ意識を持ち、援助していけるようにする		✓			

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	改善策・来年度に向けて
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にした組織運営ができている	「お互い様」の気持ちを大切に、得意分野は生かし苦手分野はフォローしあえる風通しの良さを大切にする 決定や責任等の役割分担は明確にしつつも、トップダウンにならないよう、それぞれが持っている意見を尊重し、皆が考え、意見を持っている組織作りを行う	✓				今年度はクラスカラーがなかなか読み切れず、遊びや生活が落ちつかず、担任が悩むクラスがあった。どうしても一人担任が悩みを抱えてしまうことが多くなってしまうが、本園が皆で意見を出し合い、助け合える職員集団であることが再認識でき、チームで保育する意識の高さを改めて誇りに思った。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている		✓				
		打ち合わせや会議・ＭＴ等が適時行われ、情報共有がしっかりできている		✓				
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	すぐに実践につながる研修（教材研修）や自身の学びたい内容を選択して学ぶ研修　園全体の課題を皆で共有し考える研修（全体研修）を行い 保育士各々がスキルアップを目指す。		✓			教材研修は研修内容もよく吟味され、すぐに実践につなげられたり、他園の職員との交流もできとても充実しいたものになった。 各グループでの研修は 最終の到達目標を決めていないので、今年度どこを学ぶのかなど目標値を持っても良かったのかな？と反省する。次年度はどんな形の研修にするのか、内容をどうするのかは改めて検討が必要
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	キャリアアップ研修への参加や、掛川市主催の研修会に積極的に参加し各々のスキルアップを行う。		✓			
保護者支援と家庭との連携	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	コドモンでの配信や、送迎時の職員との会話の中で、園での子ども達の姿を互いに共有したり、保育士側が必要と感じた場合に限らず、保護者側が希望した場合にも個別に面談の時間を儲けるように配慮をし、ひとりひとりの子どもに対しての共通理解や対応ができるようにする。		✓			園として保護者になるべく園での様子を伝えたいとコドモンの配信など行っているが、直接担任と話す機会を保護者はもっと求めているのだと感じる。互いに忙しい中なので、時間の確保には苦慮するが、保護者がもっと園を近く感じ、法人の保護者支援の目指すところである保護者が子育てを語りたくなる関係性を目指せるよう、短い時間で関わりが深まるよう、日々の保護者への声かけも工夫していきたい。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまずきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っていけるような取り組みをしている			✓			
近隣の学校（園）との連携	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	掛東学園の公開保育を本園で行い、学園内の園小中学校の先生方に保育を見てもらい、「幼児期に育てたい10の姿」を視点に学園内で意見を交わし合う。架け橋プログラム策定のための研究会を行う。		✓			掛東学園の接続研修が少し進んだことによって、今まで園が率先して行ってきた小学校との交流を、小学校側からもお誘いが合ったり、昨年度までの課題が少し解消されたと感じる。今後も接続研が行われていくので掛東学園で足並みを揃えながら、スムーズな移行を進めていきたい。
近隣地域との連携	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	地域の方に見守られている事、ご厚意で様々な活動ができていることに感謝の気持ちを職員皆が持ち、気持ちの良い挨拶を心掛けたり、地域の方と交流できる機会を積極的に設ける			✓		本年度も地域の皆さんに温かく見守られ、敬老会や戸外活動など交流も持つことができた。年度の途中で団地側の空き地が防災公園に整備され、ぜひあそび場に！とお声もかけていただいたので、地域の資源を生かしながら、交流を深めていきたい。